

写真9-2 (写真11の0分28秒前: ↑前ページ)

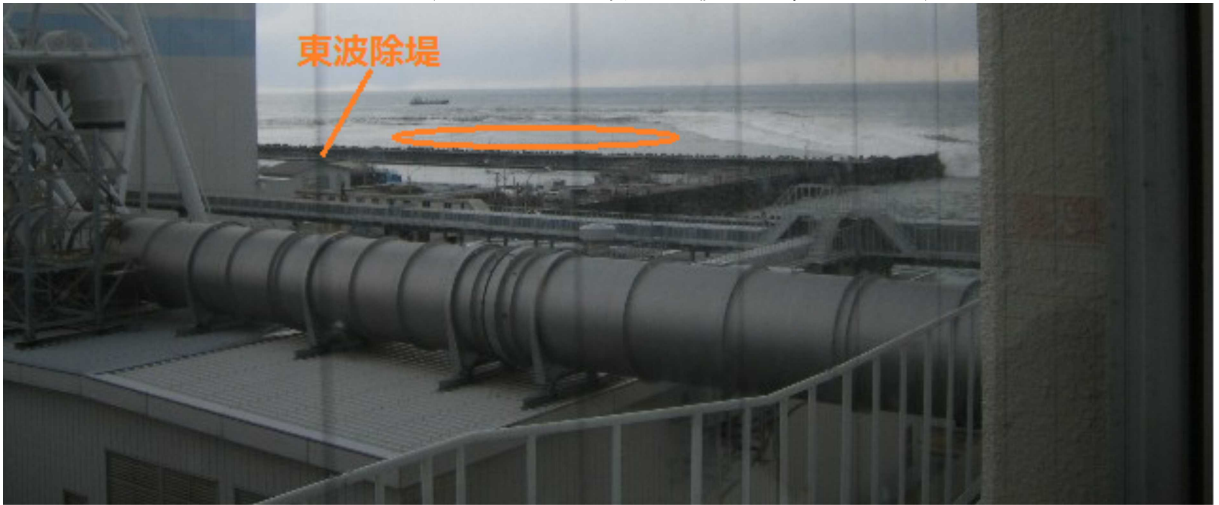


写真10-2 (写真11の0分23秒前)



写真11-3



写真12-2 (写真11の0分04秒後)



写真13-2 (写真11の0分37秒後)

以上のように、津波第2波の写真だけから見ても、津波第2波が4号機海側エリアに着岸した後も、少なくとも52秒程度の間は（写真14に至るまで）1号機から3号機の正面側の港中央部や東波除堤には津波の影響が見られなかったことが明らかであるから、1号機の敷地が津波に襲われるのはそのさらに後であり、15時38分以降であると考えられる。

それに加えて、津波第2波を1号機北側の汐見坂下の駐車場から目撃していた者は、国会事故調のヒアリングに対して、第2波により重油タンクが流されるのを目撃してその際に所持していたPHSで時刻を確認したところ15時39分であった、その後第2波が10m盤に遡上してきたので汐見坂を上って免震重要棟まで避難したと証言している（国会事故調報告書参考資料＝甲第2号証77ページ）。この証言から見ても、1号機敷地への津波の遡上は重油タンクを流す強い波があった後であるから第2波の最初の波ではないと考えられること、PHSの時刻が完全に正確でないとしても常時保持しているものであり目撃者が時刻確認に使用していることからしてはっきり時刻が狂っていればそれ以前に気がつくはずであり大きなズレはないと見られることから、1号機敷地への津波の遡上時刻は15時39分頃と考えるのが妥当である。